



ROTARY CLUB OF

NARA - WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2253

2016. 10. 27

創立 1969年(昭和44年)12月13日
例会日 毎週木曜日18:00より
事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地
例会場 奈良ロイヤルホテル内
TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2016～2017年度
国際ロータリーのテーマ

2016～2017年度
地区のスローガン



“夢を語り、^{いま}現在を刷新”
Review from the future and Renew



「美しきもの」 杉村 仁会員作

国際ロータリー会長
ジョン・ジャーム

RI第2650地区ガバナー
刀根 莊兵衛

会長	大濱正徳	副会長	有馬康明		
幹事	松山悦啓	会計	榎木晋作	会場監督	金田宗寛
理事	植野洋志	理事	谷垣嘉輝	理事	猪上正孝
理事	林 秀彦	役員	安井清悟	会報委員長	井上直治

2016～2017年度 国際ロータリー第2650地区 刀根 莊兵衛ガバナー公式訪問特集号



■合同公式訪問 プログラム

15:30～16:30 奈良西RC会長・幹事・役員懇談会
16:45～17:45 平城京RC会長・幹事・役員懇談会
18:00～19:00 例会(ガバナーアドレス18:30～)

■ 同行者	ガバナー補佐	倉本 堯慧様
■ 随行者	幹事長	山本 等様
■ 随行者	副幹事長	杉田 博様

今月は 経済と地域社会の発展・米山 月間です

第15回(2253回)例会プログラム平成28年10月27日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング 「我等の生業」
3. 来訪者紹介・出席報告
4. 会長の時間・会長報告
5. ニコニコ報告・委員会報告・幹事報告
6. 卓話:「ビックリした!!」
7. 日本人の当たり前の文化」
米山奨学生 LING,HUEY YEE(リン・フイー)様
(マレーシア:生駒RC所属)
8. 閉会宣言・点鐘

第14回(2252回)例会報告 2016. 10. 20

ソング

「君が代 奉仕の理想」

来訪者紹介

刀根荘兵衛様 国際ロータリー第2650地区ガバナー
倉本堯慧様 国際ロータリー第2650地区ガバナー補佐
山本 等様 国際ロータリー第2650地区幹事長
杉田 博様 国際ロータリー第2650地区副幹事長

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通算2252回	43	8/11	28/32	7	91%
通算2250回修正	43	5/11	27/32	5	88%

会長の時間 (大濱会長)

皆様こんばんは。本日は平城京ロータリークラブとの合同ガバナー公式訪問であります。RI第2650地区ガバナー刀根荘兵衛様をお迎えしての合同例会であります。刀根ガバナー御一行様ようこそ私共両クラブの例会にお越しいただきまして誠に有難うございます。両クラブを代表しまして厚くお礼申し上げます。今日は会長、幹事、役員懇談会に始まり、先ほどまで各種の活動に対しまして大変意義深いガバナーコメントを頂きまして本当に有難うございました。約1時間の懇談会が倉本ガバナー補佐、山本幹事長、杉田副幹事長同席のもとに意見交換を行ったわけですが、その後10分の休憩をにおいて、すぐまた平城京ロータリークラブの会長、幹事、役員懇談会が同じく約1時間ありました。皆様大変お疲れになったことと思いますが、これらの事を何度もなされておられるということで、本当にハードな毎日の連続であろうとお察し申し上げます。お身体には最大限気配りをして、全クラブ公式訪問を無事に終えて頂きますことをお祈り致します。また、この後6時半からガバナーアドレスを頂きます。どうか宜しくお祈り致します。会長の時間は以上です。

ニコニコ報告

刀根荘兵衛様 倉本堯慧様
山本 等様 杉田 博様

大濱正徳会長

刀根ガバナーをお迎えしての公式訪問
合同例会、平城京RCの皆様と共によろしく
お願い致します。倉本ガバナー補佐、
山本幹事長、杉田副幹事長有難うございます。

松山悦啓幹事、吉村信男、小原壮一、
三木武彦、山上 巖、谷垣嘉輝、川崎祥記、
有馬康明、安井清悟、追山重法、奥田裕一郎、
佃 尚彦、猪上正孝、内藤源美、川野隆祐、
下村由加里、植野洋志、榎木晋作、小川信勝、
植野教夫、斉藤満弘、道端孝治、松中 隆、
植田良壽会員

刀根ガバナー御一行様

本日はご指導宜しくお祈り致します。

ニコニコ

林 秀彦会員

刀根ガバナーを迎えて、会長・幹事・理事
懇談会と例会でガバナーアドレスを
聞かせて頂き大変勉強になりました

杉村 仁会員

ガバナーご一行をお迎えしてニコニコ

東山光秀会員

昨日の霊山寺ゴルフコンペご参加いただき
ました16名の皆様誠に有難うございました
また賞品ご協賛いただいた方々
感謝申し上げます

渡邊 巖会員

東山さん先日はありがとうございました

幹事報告 (松山幹事)

・例会変更は表に掲示しております。またHP会員ページにも掲載しておりますのでご覧ください。

・明後日10月22日はIMがホテル日航奈良で開催されます。当クラブより榎木会員がディスカッションに参加致しますので出席のお願い申し上げます。

・次週10月27日は米山奨学生の卓話を予定しております。

■ガバナーアドレス

国際ロータリー第2650地区ガバナー
刀根 荘兵衛様

皆様こんばんは。只今ご紹介賜りました本年度ガバナーを拝命いたしております敦賀ロータリークラブの刀根 荘兵衛でございます。本日は合同公式訪問例会という事で、奈良西RC、平城京RC様をお尋ねさせて頂き、ガバナーアドレスを申し上げる機会を頂きましたこと、心から感謝を申し上げます次第でございます。また、今回この合同公式訪問例会にご協力、ご理解頂きますこと心から感謝申し上げます次第でございます。

それではアドレスを申し上げたいと思います。最初に本年度RI会長ジョン・ジャーム氏のプロフィール、会長テーマについてご説明申し上げます。ジャーム会長様ですが、1976年アメリカテネシー州CHATTANOOGA RCにご入会、本年でロータリー歴40年を迎えご年齢は77歳とお聞きしています。ジャーム会長様でございますが、青年時代は大変苦労が多かったと聞いております。ご両親が大学の授業料をお支払いする余裕がなかったので職業訓練校に通った後、機械工業や大学の寮の食堂で働きながらノックスヴィルにあるテネシー州立大学に通われたそうでございます。大学卒業後、直ちにアメリカ空軍に御入隊されすぐに大尉まで御昇進をされ、やがて4年後の軍役が終わってから故郷にあるエンジニアリング会社に就職されました。そこで持ち前のバイタリティーとたいへん素晴らしい才能を開花され、入社後たった10年で会社の社長兼CEOになられたそうです。ちょうどそのころロータリーに入会されたようで、37歳でロータリアンになっておられます。会社経営の他にも様々な社会的活動にも携わっておられ、例えば大学に通うことの出来ない学生に奨学金を出すプログラムにも力を入れておられます。ロータリー歴はRI副会長、理事、財団管理委員、規定審議会議長など数々の要職をご歴任になっておられますが、特にポリオ撲滅の為のロータリー2億ドルチャレンジの委員長として大活躍をされ目標をはるかに上回る募金を集められたという実績は特筆すべきものがございます。ポリオに関しては、ジャーム会長のお父様がポリオの患者のお一人であったこともございまして、大変思い入れのあるプログラムとなっているようです。今年1月の国際協議会の最終日の閉会本会議の中で、涙で言葉をつまらせながらご自身のポリオのエピソードをお話しになりましたのが今でも大変印象深く残っております。1950年代アメリカでもようやくポリオワクチンが投与されるようになりましたが、大人には免疫があると信じられていました。しかしそれは全ての人にあてはまる事ではありませんでした。

ジャーム会長が子供のころ会長のお父さんとお兄さんが二人で釣りに出掛けられた時、お父さんが突然歩けなくなりました。お父さんは成人されてからポリオに感染されたのでした。医者からは「もう二度とお父さんは立ち上がることが出来ない」と宣告をされましたが、懸命のリハビリの結果、なんとか足を引きずりながら歩けるようになりました。お父さんのポリオに打ち勝つのだと必死にリハビリをする姿にジャーム会長はポリオ撲滅を心に誓ったそうです。ジャーム会長はご自身のもっとも大切な価値観として「Integrity」という言葉を使っておられます。「Integrity」は日本語で「高潔性」と訳しておりますがわかりやすく申し上げますと「誠実でぶれない」ということになるかと思えます。ジャーム会長ご夫人ジュディさんは「この「Integrity」という言葉は誰も見ていないときに正しいことをすることなのだ」と仰っております。つまり倫理的な原理原則がしっかりしていて、強い者から言われたからといって自分の立場を変えたり、自分の利益になるからと言っていい加減な嘘をつかない、ということだと思います。誠実で約束を守り抜く強い精神をお持ちのジャーム会長のリーダーシップに我々は大いに期待をしたいと考えている次第でございます。

さて、その素晴らしいジャーム会長の今年のRI会長テーマは「Rotary Serving Humanity」日本語で「人類に奉仕するロータリー」です。この「Rotary Serving Humanity」という英語は大変シンプルな言葉ですが、ロータリーの本質を表す言葉だということでこのテーマを選ばれたそうです。ロータリーは創立当初からサービス、奉仕を目的としており、特にそれは人に対する奉仕、人類に対する奉仕、サービスがロータリー運動の本質なのだということです。現在ロータリーは、110年を経て常に変革を遂げながら時代の変化に対応し、前進をしていますが、「ロータリアンをロータリアン足らしめる真髄は奉仕なのだ」とジャーム会長は強調されています。かつて創始者ポール・ハリスが「人生の最大の目的は人に奉仕すること」と述べたそうです。このポール・ハリスのロータリーの奉仕に対する期待を継承し、人に対する奉仕を行っていく責務が我々にはあるのだということで、このテーマが決められたということです。そしてこのテーマを達成するためには誠実性・多様性・寛容・友情・平和を信じ、意欲と思いやりと知恵にあふれた人が必要であり、多様性のある人が皆入会して活動したいと感じるような柔軟性のあるクラブになってほしい、と言っておられます。何よりも120万人の全世界のロータリアンが一つのチーム、ロータリーチームとして一丸となりこのテーマを實踐して頂きたいと訴えられております。さらにこのテーマを實踐するためには、お一人お一人のロータリアンが毎日1回何か一つ良いことを行うことを

心掛けてほしいとジャーム会長は強調されています。たったこれだけのこともかもしれませんが、これが私たちがロータリーにいる理由であり、私たちがまずなすべき事なのです。そして最善を尽くして人類に奉仕し、できる限り多くの人々の人生をよりよくすることが私たちの役割なのです、という事でこのテーマのスピーチを終えられました。

次にRI会長テーマに基づき、地区のスローガンをご説明致します。ジャーム会長は「ロータリーの本質はサービスだ、人に対する奉仕なのだ」と、また「人々をロータリーに引き付けるのもサービスである」と言っておられます。私はこのロータリーの本質であるサービスをもう一度振り返り、奉仕の第二世紀を迎えた日本のロータリーが進むべき道を皆様と共に考えてみたいと思います。「ロータリーはもう曲がり角に来ている」「ロータリーはいったいどこにいくのか」こんな言葉が交わされるようになってからもう何年たったのでしょうか。私たちはここ数十年、毎年同じような言葉を繰り返しているような気がいたします。しかしふと気が付くと既にその曲がり角を通り過ぎてしまったような気がいたします。かつてガバナーエレクトがガバナー研修を受ける国際協議会の入り口に大きく「入りて学び、出て奉仕せよ」「ENTER TO LEARN, GO FORTH TO SERVE」という言葉が掲示されておりました。この言葉は1947～48年のRI会長ケン・ガンジーによって作られた言葉ですが、その年の国際協議会から会場に掲げられています。実はこの言葉はロータリー運動の基本を示す言葉だと考えています。現在、国際協議会では掲げられていませんが、私はこの言葉はロータリー運動の実体を実に見事に表した言葉だと考えております。世の中のあらゆる職業から選ばれた人達が原則的に毎週開催される例会に集い、例会の場で事業経営のあり方を学び、友情を深め、自己研鑽を図り、その結果として奉仕の心が育まれていきます。そして例会で高められた奉仕の心をそれぞれの家庭、職場、地域社会にもちかえり奉仕活動を実践します。これが理想とされるロータリーライフです。米山梅吉翁が「ロータリーの例会は人生の道場である」と語ったと言われていますが、まさにこのことを示すのではないかと考えます。また同じような意味で、かつてRIがロータリアンに、「ロータリーとは何か」の認識を高めてもらうために「ロータリー真の姿委員会」を設置し検討を重ねたことがあります。その結果ロータリーの真の姿とは「E・S・S」で表されるという結論に達したそうです。EはEnjoyのE、毎週の例会で地域の職業を代表する会員同士が信頼感を高めながら心から楽しむ。SはStudy、学ぶ、ロータリーから人生哲学、職業倫理を学び自己研鑽をし、人間性を高める。最後のSはService、奉仕すること。思いやりの心で人のお役に立つ行動を、というロータリーの奉仕をごく自然に

自分の生活の中に活かし、世の為人の為に尽くすという事です。「E・S・S」がロータリーの真の姿でありロータリアンがお互いに磨きあい、楽しみ、学び、奉仕することが人間の真の満足を満たす道になるのだと思います。そしてこのように素晴らしい120万人の全世界のロータリアンの輪の結集が世界的な紛争予防になり、結果的に国際理解と親善・平和を推進することにつながるのではないかと考えております。ところで、元来ロータリーの奉仕理念は高度な哲学・宗教から出発したものではなく、人間本来生まれながら持っている目に見えない精神、何か人のために役に立ちたい、という心を発掘し、育んでいくことです。これがロータリーの生命力であり原点でもあるわけです。1974-75年度のRI会長ウィリアム・ロビンズ氏は「ロータリーの第一の仕事は人をつくることなのだ」と述べております。ロビンズ会長が初めて日本をご紹介された時にさらに詳しく次のように述べておられます。「RCの進化はいかほどの金銭を集めたか、いかほどの計画を実践したかではなく、そのクラブがいかなるロータリアンの人づくりをしたか、という事に尽きる。金品を社会に寄贈して奉仕するのはロータリーの本義ではない。奉仕する人を育成して社会に寄贈するのがロータリーである」と言っておられます。実に味わうべき一文ではないでしょうか。ロータリーの素晴らしさはロータリーの例会にあります。20世紀の奇跡と言われたロータリーを21世紀まで引き続いて発展させるためには、ロータリーの最も重要なユニットである各RCを充実させる以外になく、各RCを充実させるためには会員お一人お一人がロータリーこの素晴らしきものを知り、体得することにあります。ロータリークラブにとりましてロータリアンづくり、人を育てる事こそまさに全ての根幹ではないかと考える次第でございます。私たちは長年にわたり「超我の奉仕」と「最もよく奉仕するものが最も多く報いられる」この二つを公式標語として、ロータリー精神の基本としてまいりました。このモットーは自分の事は後回しにして人のために役立つことをしよう、という人間の善意が実は自分の為にもなるということを示しています。このことを体験的に信じている世界中の人の集いがロータリーであり、「奉仕の理想」とはこのようなことを指しているのではないのでしょうか。そうしてポール・ハリスはこのモットーにあります「報いられる」というのはお金ではなく人生のsomethingなんだ、と述べておられます。又当地区の小谷隆一元RI様はこの「報いられる」というのは決して物質的な面をいうのではなく、奉仕活動が続けているうちに自然に徳が身に付き、よき人間形成が成されていく、と解釈すべきである、と述べられています。そしてロータリー生活の中で得られる徳の中で最高のものは良き友人である、互いに修練を積み、心の通った友人ができるのがロータリーである、

と述べておられます。私はこのようなロータリーの基本精神は今日でも変わることがない、変えてはいけないものだとして信じております。このような原点に立ち私たちはこれからあるべきロータリーの姿をもう一度見つめ直し、今を刷新Renewする必要があるのではないのでしょうか。もうすぐ100年を迎えようとする日本のロータリー、私たちはもう一度ロータリーのあるべき姿を思い描き、夢を語り、未来を見つめ、高い理想をそこに求め、そこから現在を創造する、刷新することが求められているのです。2016-17年はロータリーの未来を皆様と共に考える一年にできればと思い、地区のスローガンを「夢を語り、現在を刷新 来し方を顧み、行く先を見つめ、理想の未来を思い描き現在(いま)を見直し刷新しましょうー素晴らしい未来を創るために」とさせていただきました。

ところで、能の世界で大変有名な世阿弥が晩年に書いた著書に「花鏡」という本がございます。その中に大変有名な一節「初心忘るべからず」という言葉があります。私はロータリー運動も初心を忘れてはならないと考えています。初心の初という字は衣へんに刀と書きます。これは長年使った着物にはさみを入れて仕立て直しをすること、あるいはまた、はさみを入れる勇気を示していると言われています。たとえ今までどんな優秀な素晴らしい成功があったとしても、いつかそれは陳腐化するものです。それを変更し仕立て直しをする、つまり昨日とは違う仕事、違うやり方をする必要があるという意味があるようです。ロータリーに置き換えて考えますとニーズに合ったロータリーらしい奉仕活動とは何か、素晴らしいロータリアンを育てるためにはどうあるべきか。ロータリー運動の根底にあるクラブ会員の友情・友愛を深めるためにはどうすればよいか、様々な変えるべき課題があるのではないのでしょうか。基本理念をしっかりと持ちながら今日から常に新しい時代、歴史は今日から始まるのだという気持ちとバイタリティーがなければこれからの変革の時代は生き延びていけないのではないかと考えております。

最後にロータリーの奉仕の本質を見事に語っているお話を紹介させていただいて私のアドレスを終えさせていただきたいと思っております。2660地区戸田パストガバナーの著書から引用させて頂きました。北陸でのお話しです。

若い夫婦に男の子が生まれ、まもなく高熱の為に知的障害になってしまいました。弟が生まれ口が利けるようになると「兄ちゃんなんてばかじゃないか」といいます。母は叱ろうと思いましたが、親がいなくなった時に弟にお兄ちゃんを面倒見てもらわなくてはならない、弟が小さい間にお兄ちゃんを労わる心を育ててやりたいと思いました。その日からお母さんは弟が兄に言った言葉を毎日ノートにつけ始めました。しかし1年たっても2年たっても弟の口から

出るのは「おにいちゃんのばか」。母は諦めようと思いました。弟が幼稚園に入園して数か月たった七夕の日、親戚や近所の子供たちが沢山集まって来ました。お兄ちゃんは多くの人に興奮したのか来た人をポンポンとぶち始めました。しかし誰もがやめなさいとは言いません。その時隣の部屋から弟がパッと飛んできて、お兄ちゃんの体にすがり「お兄ちゃん、ぶつなら僕をぶって。僕は痛いつて言わないから」それはお母さんが長年待ち続けた言葉でした。その晩、お母さんはあふれる涙を抑えながらノートにありがとう、ありがとうと書きました。ありがとうしかなかったわけです。感動とはこんなものではないのでしょうか。弟が小学校になったちょうど入学式の日、先生は生徒の座席を次々と決めていきました。すると弟の隣に小児麻痺で左手が不自由な子が座っているではありませんか。お母さんは愕然としました。家ではお兄ちゃん、学校でも不自由な子の隣、なんという不運な子なのか。家に帰って両親は引越しを真剣に考えました。最初の体育の時間、先生はこの不自由な子供がどうやって体操服に着替えるのか放っておきました。体育が始まり30分経ってようやく校庭に恥ずかしそうにその子は出てきました。次の体育の時間、先生は柱の陰から教室の様子を見ていました。そこには驚くべき光景が見られました。前の時間が終わり、先生が出ていくとあの弟がまず全速力で自分の着替えを済ませ、隣の子の着替えを一生懸命に手伝い始めたのです。弟は半袖の体操服に不自由な手を通していません。母親でも難しい仕事です。ベルが鳴って二人は手をつないで校庭に向かって走って行きました。先生は弟を褒めてやろうと思いましたが、褒めると次から褒められるからやるのだ、ということになり弟の美しい心はいつか汚されてしまう。先生は弟に対する感謝の涙を我慢しながら体育を続けました。偶然にも七夕の日、初めて父母の会が開かれました。先生は教室に笹を飾り、短冊に子供たちの願いを書かせ、笹に着けました。父母が揃ったときに先生は生徒の短冊を一枚一枚読み上げていきました。「もっとおやつちょうだい」「もっとおこずかいちょうだい」「おもちゃ買って」と読んでいったとき、先生が思わず目を凝らしました。「神様となりの子の手を直してあげて」先生はこみ上げるものを必死にこらえましたが、こらえきれずに体育の時間の話をしました。弟が手の不自由な子の為に一生懸命に体操服を着替えさせている感動の様子を伝えました。手の不自由な子のお母さんは廊下で教室の様子を聞いていましたが、先生の話聞いて教室に飛び込み、床の上にべったり座り弟の首を抱いて涙を流しながら叫びました。「ありがとう、ありがとう、ありがとう」。その絶叫は学校中に響いたといえます。

私はこの弟がたとえ成績が悪くても小さいころからお兄ちゃんを思い、小学校では友達を労わり着替えを手伝う勇気を持つことで心の温かい素晴らしい人生を歩んでいけることと思います。そして時間をかけてこのやさしい労わりのある心を育ててきたお母さんと先生、これが本当の教育ではないかと思えます。単にこれは教育の在り方を示しているのではなく、人としての生きる道、思いやりの心を示しているように思えてなりません。

現在私たちは物事を捉えるのに自分と他人、善と悪、過去と未来、こういった二元論ばかりで見てきました。自他の分離が、あの人のせいで私は不幸になった、私は正しいのにあの人は間違っている、過去にこんなことがあったから私の未来は不安に満ちている、こんな発想を生みこれが私たちを苦しめて参りました。現在こういった二元論を超えた一元論の世界が求められているのではないのでしょうか。

今この瞬間自分は全ての人とつながっている喜びの感覚を多くの人たちが味わえる時代。目の前に展開される不幸に思える出来事にも意味を感じ、感謝して乗り越えていける共生の世界、この一元的な発想こそ実はロータリーの奉仕の心そのものではないかと考えております。今一度私たちはロータリーの奉仕の原点に立ち返り、これから私たちのロータリーがどうあるべきか、どうありうるのかを考えてみる時期にきたのではないのでしょうか。ロータリーにおける自己研鑽の効果が社会的に高い評価を受け、また行っている奉仕活動が正鵠を射たのであれば自然と人は集まって参ります。要するにロータリーに魅力があればロータリーは自然と発展するものと考えております。皆様のRCが21世紀のロータリーの新しい夢に向かってさらに大きくご発展されますことを心からご祈念を申し上げまして、私のつたないアドレスを終えさせていただきます。ご清聴有難うございました。



会長・幹事・役員懇談会



手に手つないで





第16回 (通算2254回)例会予告
例会日 平成28年11月10日(木)
臨時総会
卓 話 「まず、健康」
奈良大宮ロータリークラブ
松岡嘉平治様
■ 11月3日(木)は祝日の為休会です